

第2回新市建設計画策定小委員会

議 事 録

第2回新市将来構想策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成16年4月22日(木) 午後3時
- ・場 所 長岡市役所大会議室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	大地 正幸	佐々木保男
今泉 實	伊佐 文也	米持 昭次	小方 保
坂牧宇一郎	高野 徳義	五十嵐 徹	野田 幹男
鈴木 隆三	原田 秀樹	鯉江 康正	阿部 誠一

以上 16名

(欠席委員の氏名)

熊倉 幸男 小疇 弘一

以上 2名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡地域合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

ただいまより長岡地域合併協議会第2回新市建設計画策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日は、熊倉委員と小疇委員のご都合によりご欠席となっておりますが、半数以上の委員のご出席をいただいておりますので、規程により会議は成立していることをご報告いたします。

次に、本日の資料の確認をお願いいたします。事前に会議次第、資料1、資料2を配付しておりますが、資料2につきましては記載構成を変更してわかりやすく工夫したものを資料2-1として用意しておりますので、恐れ入りますが、本日お配りしている資料をご使用くださるようお願いいたします。また、資料2-2を追加しております。

それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきます。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はお近くのマイクを使われますようお願いいたします。

初めに、小委員会委員の変更がございましたので、報告いたします。資料1をごらんください。長岡地域振興事務所長の渡辺紳一郎委員にかわりまして、新たに長岡地域振興事務局長の阿部誠一様が県の組織改正及び人事異動によりご就任されました。つきましては、本日の会議より当小委員会の委員になりましたので、ご報告いたします。

委員（阿部誠一）

阿部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（北谷）

よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、第2回長岡地域の合併協議会の新市建設計画策定小委員会をこれから開きたいと思っております。

今日は、この委員会の後また別の会議が用意されておりますので、ひとつよろしくご協力をいただきたいと思います。

今事務局長の方からお話ありましたように、新市建設計画書の修正箇所を含めて建設計画策定に向けての第2章、基本方針が新たに追加されております。ご審議いただくこととなりますけれども、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、1番目の議題といたしまして、新市建設計画書について事務局の方からご説明をいただきたいと思います。

事務局（竹見）

事務局の竹見でございます。よろしくお願いいたします。失礼ながら、座って説明させていただきます

す。

お手元の資料の2 1というものをごらんください。今日お配りさせていただいた資料の方をご使用願いたいと思います。ながおか地域新市建設計画（素案）ということで、第1回目は序章の部分を中心に提示させていただいたわけですが、前回の小委員会でいただいたご意見をもとに修正したり、それから事務局の方でもいろいろ修正の作業、いわゆる見直しの作業を並行して進めていまして、今日こういった形で提出させていただきました。

それでは、1枚おめくりいただきまして目次をごらんください。19ページのところから上が前回の提出させていただいた部分でございます。今回提出は19ページ以降ということで、それから前回提出させていただいた部分で、本日序章の4番のところでは建設計画策定に向けてということで、前回は小委員会の中で建設計画の策定の考え方や手法についてご審議していただいたわけですが、その部分を加工して本文の方に入れております。

それでは、順を追ってご説明をさせていただきます。まず、4ページから序章に入っております。こちらは、4ページが序章、それから5ページからは合併の必要性ということで、前回序章の部分でご意見いただいたのが6ページです。6ページのところで不確実性の時代と、そういったところでまとめさせていただいたわけなんですけども、こういった不確実性の時代だからこそ地域を見詰め直すチャンス、いわゆるチャンスという時期ととらえて修正したらどうかというご意見をいただきましたので、そういったご意見をちょうだいいたしまして修正をしております。本文の方もそういったチャンスというところをとらえながら、特に真ん中の方にありますけども、地方自治体のみならず地域の意味や役割を認識して、本当に実現したいこと、あるいは本当に大切なものは何かということを見直すチャンスではないかと。そして、こういった新市の変化のときをまちづくりのチャンスととらえて、長岡地域6市町村の地域的な役割を理解した持続力のあるまちづくりを進めていくことが大切であると、そういったものを入れております。それから、(4)も少しわかりやすい表現にまとめて、この部分はニュー・パブリック・マネジメントのそういった都市経営の考え方を入れておりますけども、そういった部分で変更を加えてあります。

それから、7ページ以降なんですけど、4番の建設計画策定に向けてということで、先ほどご説明しましたように建設計画の策定の考え方と手法を本文の中に入れております。これが10ページまで続いております。

それから、12ページ以降なんですけれども、こちらが第1章に入りまして、新市の概況からみた可能性、1番が新市のフレームということで、新市がどういうところかがわかる、そういった概略をまとめております。前回の小委員会では、もっと地域らしさ価値に結びつくものを選んだ方がよいのではというご意見をいただきましたので、そういった観点からもまとめております。それから、前回と違うところはコメントを追加したり、あと資料のデータ等も少し変更を加えております。12ページが位置と地勢です。

それから、13ページが人口と世帯。

それから、14ページが人口動態の見通し、これを今回追加しております。

それから、15ページが気象ということで、いろんな気象上の特徴を生かして多様な観光活動を提案できる地域ではないかというコメントも加えております。

それから、16ページです。こちらが6市町村の面積です。下の方に可住地面積等もまとめております。

それから、17ページが土地利用ということで、こちら多様な地域特性を生かしたまちづくりを進めていくことができるのではないかということでまとめています。

18ページです。こちらは、都市計画区域の面積をまとめております。

それから、19ページ以降なんですけども、今回改めて追加させていただいております。こちらは新市の競争力ということで、地域らしさ価値を意識して整理しております。今回特に長岡地域の強みの部分とか、これから競争力として芽が出そうな部分をまとめております。まず、19ページの右上の方でございますけれども、産業規模と成長率ということで図にまとめております。新潟県、それから新潟市、それから6市町村の計、そして各地域ごとにまとめております。左の方の増減率ですけれども、これは事業所数の平成8年と平成13年の比較をあらわしております。右へ行くに従って、総事業所数の件数が多くなっております。あと、真ん中が製造業1事業所当たりの出荷額、そして下が特に長岡地域の強みでございます製造業の事業所数の状況をまとめております。

それから、20ページをごらんください。こちら強みでございますけれども、新市の商業ポテンシャルは非常に高い可能性があるということで、一番右上の方に小売1店舗当たりの販売額、そして小売吸引力をまとめております。それから、元気に満ちた米産地につながると思いますけれども、下半分、二つの表とグラフは農業粗生産額、そして米の粗生産額とか、それから収穫量の数字をグラフでまとめております。ただ、1点、米粗生産額の表のところなんですけども、新潟県と新潟市の数字がちょっと逆転しておりますので、そちらの方を済みませんけども、ご訂正をお願いいたします。特に長岡地域は米粗生産額においては県内トップだということで、特にこれからも強みとして生かしていけるものではないかということです。

それから、21ページが新市の暮らしやすさということで、新市の住民の安心、安全な暮らし方を支える力ということで、こちらは犯罪、あるいは交通事故を特に新潟県の平均を下回っているということで、ですので、今後も安全、安心な暮らしを支えていく力を維持、発展させていくまちづくりが必要だということになります。それから、新市の環境への優しさということで、こちらは汚水処理の整備率ということで、全国平均くらいのレベルに達しているということです。

それから、22ページです。こちら新市の人を育てる力ということで、住民がみずから学ぶ活動を支える力、そういった生涯教育を支える、そういったボランティアの養成講座の開催状況を示しております。まだこれ実施予定ということになっておりますけども、これ今数字の方を現在調べておりますので、最終的には別な形でご報告をします。それから、(2)が高齢者が生き生きと学び、社会貢献を支える力

ということで、高齢者が積極的に参加できる力と、そういった施設ボランティアの実施状況をこちらの方にまとめております。

それから、23ページが新市の交流する力ということで、地域間での交流力という形でまとめております。グラフの方は関越道、それから磐越道インターチェンジの出入り交通量ということで長岡、それから中之島見附のインターチェンジのグラフをごらんになっていただくとおわかりのように、非常に出入り数が県内でもトップクラスになってきているということが伺えます。それから、一番下が観光という形で観光客数、それから県外客の入り込みの推移ということで、新市はマイナスになっていないと。常に前年度比プラスの入り込みの推移が今あるということで、これからもそういった強みを生かしていく必要があるということです。

それから、24ページをごらんください。こちら右上の方のグラフなんですけど、平成2年度と平成12年度の比較をしています。これは長岡市への交流状況といいますが、地域間の推移ということで、特に中心都市である長岡市に流入する人口が増加傾向にあるということでお考えいただければと思います。特にこれからもこういった広域を対象とした事業とか、それから整備を進めることが必要になってくると、そういったような可能性があるということです。

それから、25ページですけれども、国際的な視野からの交流力ということで、こちらはこれからの強みにつながる部分ではないかということで、上は姉妹都市、友好都市の図を示しております。それから、上から2番目が国際交流推進事業ということなんですけども、近年になって派遣人数と、それから受け入れの人数が増加しているということで、そういった新市につきましてはこれからも積極的に国際交流を進める体制の充実を進めることが予想されてくるということです。それから、下がNPOなどの活動状況ということでまとめております。

それから、26ページ以降なんですけれども、こちらが第2章の基本方針ということで、これは、新市将来構想をまとめております。本日本文の方におつけした資料は、こちらは新市建設計画単体で構想の中身も詳しく説明した場合にはこういった形でまとまるのではないかと思います。ただごらんになっていただきますと、かなりの情報量が入っておりますので、事務局の方ももう一つ別な視点で、新市建設計画が新市将来構想を実現するものであるということで、常に新市将来構想と建設計画書をセットにして考えていくとどうだろうかということで、今日資料2-2をおつけしたんですけれども、ある程度詳細なことについては将来構想をごらんいただくという考え方からいきますと、本日の資料2-2をごらんいただきますと、結果だけを抜き出して整理しております。ですので、今後本日もまたご意見いただきたいんですけども、こういった形でこれから表現していったらいいかということも含めて、後でご意見をいただきたいと思います。

それで、資料2-2の方をごらんいただきたいんですけども、まず資料2-2の1ページをごらんください。こちらのまず新市将来像の考え方ということで、簡単に1ページにまとめております。基本方針ということで、四つの地域らしさ価値、そして新市のスローガンというものをまとめていまして、新

市の将来像につきましては全市で取り組むべき活動展開、あるいは地域別の活動展開、あるいは方針も含めているという形で表現しております。

おめくりいただきますと、地域らしさ価値ごとに結果だけを載せて、重点実現項目とのつながりをよくわかるような形で載せております。

そして、6ページ以降でございますけれども、こちらは各地域別の地域らしさ価値を高めるための方向性と、それから実現すべき新市の地域別の姿ということで、地域別の整備活動方針を載せております。資料2-1とお比べになってごらんいただきたいんですけども、資料2-1の方はどちらかといいますと過程まで含めて理解できるような形でまとめています。ですんで、将来構想を余り見なくてもわかるような形にはなっておりますけれども、かなり情報量が入っていますんで、少しわかりづらい点があります。ですんで、今後は将来構想とセットでお考えになっていただいて、結果だけをシンプルな形で載せていった方がいいのかなというふうには考えております。まだこの辺は作業の途中ですんで、また後でご意見をいただきたいと思います。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

第1回の小委員会で、いろいろご意見をたくさんいただきました。そのご意見を事務局の方で整理をさせていただきまして、ただいま説明を受けたように内容を少しずつ追加、修正、その他補足をしてまとめてございます。お手元にお配りしておりますこの資料の最初のところからご意見があるかどうか伺いしながら、もう一度見ていただいて進めていきたいと思います。

最初の目次はいいとしまして、4ページ、序章、これは基本的にこういう形になりましたけど、これはよろしいですね。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

5ページの合併の必要性というところで、一般的な背景と自治体に求められる役割というところで1と2、地方自治体、それから住民ニーズというふうな項目で整理をされております。

はい。

委員（米持昭次）

この建設計画素案というのが前に配られたのと相当訂正になっていると思うんですけども、最初に配られたのを見させていただきますと、相当直していただきたいというところが目にあったんです。これを今見させていただきますと、今ここでこれを全部読む時間がないんです。そういうようなもので、これでいいかと言われても、なかなかいいとも言われないうし、もう少しこの内容を検討して、直したいところが出てくると思うんです、それぞれ。ですから、今日のところは字句の問題とか、そういうのは抜きにして、特に目についたところがあればあれですけども、これでいいかと言われると、ちょっと返

事ができないところがあると思いますので、その辺をよろしくお願ひしたいと。

委員長（豊口 協）

ご指摘のとおりだと思います。基本的な内容についてご意見をいただいて、あと細かい点につきましては、これはさらに精査をしないとイケないだろうと思っておりますので、全体のまとめの方向性、項目その他についてご意見をいただいていきたいと思ひます。任意協議会のころからずっと続けて委員をやっている方々もおられまして、内容については相当詳しくいろいろとご存じだろうと思ひますけれども、今回全体の構造が少し変わりましたので、その辺も含めてご意見をいただきたいと思ひます。

この序章の中で、事務局からさっきお話ありましたように6ページの上のところには地域を見詰め直すチャンスの時期ととらえたらどうかというふうな言葉がありました。チャンスというのは、これ任意協議会のときも横文字はやめろ、やめろと、そういうふうなご意見が随分ありましたけれども、チャンスぐらいいいかなという気もしますが、この辺はいかがでしょう。よろしいですね。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

3番目のところに地方自治体が自らの地域の意味や役割を認識しという文章を明快に打ち出されておられて、最後のところに長岡地域6市町村の広域的な役割を理解した持続力のあるまちづくりを進めていくことが大切であるというふうに締めくくっております、これ基本的な考え方でございますが。

それから、次の4番目ですが、顧客としての住民を志向する新たな地域経営の姿を求める手段としてという項目がありますけれども、このちょうど真ん中あたりにニューパブリックマネジメント（以下NPM）というふうに略して記載されています。この辺はいかがですか。一般的にはこういう言葉使っておりますけれども。

委員（米持昭次）

注釈があった方がいいと思ひます。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。注釈が必要だということですね。よろしくお願ひします。

次の7ページ以降10ページまでですが、ここでは特に修正したところがないような気がしますが、よろしいですか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

じゃ、次の第1章、12ページですが、ここでは新市のフレームとして位置、地勢を中心に少しデータが追加されております。このデータだけで十分であるかどうかという基本的なことについてご理解をいただきたいと思ひます。

はい。

委員（米持昭次）

12ページの長岡市中心までのアクセス時間のところですけど、これは参照資料として長岡地域の振興計画によるということですから、その計画によればそれでいいんですけども、私ども普通は三島町の場合は長岡市の中心部までは15分と考えているんです。それは込みぐあいにもよりますけど、中心部がどこかという定義もありますけど、普通15分と考えています。ここへ来るにも15分で来ます。そんなことで何か34分というと、大分遠いところから来るなという感じがしますんで、その辺どこかほかの資料がないかなと思うんですけど、これはいかがですか、この資料の出どころと内容について。

事務局（竹見）

長岡地域の振興計画の中から抜粋したんですけども。

委員長（豊口 協）

注釈が必要か、実態をどうもう一度検証するかです。

委員（小方 保）

実態の数字に合わせてもらいたいということです。関原回りで三島町役場までバスだったら34分。

事務局（竹見）

これ平成11年度の道路交通センサスで行っているんですが、平日の混雑時徐行速度という形で算出しております。市役所、あるいは役場間という形の数値になっております。

委員長（豊口 協）

このデータは、これやっぱり混雑時はどのぐらいで、込んでいないときは何分ぐらいというのはやっぱり必要でしょうね。

事務局（竹見）

もう少し見直しいたします。

委員（鯉江康正）

三島は15分で行ける、いつもなら。混雑時の道路交通センサスだと、橋があるんで、すごくかかるんです、市役所まで来ると。それですから、建設省が出している道路時刻表なんかもあるんで、ちょっと道路時刻表で区間ごとに主要交差点ごとに書いてありますんで、あれはすいているというか、通常の状態の平日に計っていますから、そういうのを併記しておいた方がいいかもしれません。そんなに大変な作業じゃないと思います、それは。

委員長（豊口 協）

だけど、これバス、それから自家用車でも違いますよね。

事務局（竹見）

違います。

委員長（豊口 協）

じゃ、この辺もう少し資料についてご検討いただいて、より正確な数字を入れていただきたいと思い

ます。数字で表現するというのは常に危険なことがあります、これは。およそとか、約とか、いろいろ入れておいた方がいいかもしれません。ありがとうございました。

ほかにこの資料でご意見等ございませんか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

次の13ページ、人口、世帯というのがございます。これはいかがですか。これはあくまでも推移及び推測ということになりますが、実際の数字は確かなデータだろうと思います。

お願いします。

委員（原田秀樹）

これは、年齢構成を入れておいた方がよしいんじゃないですか。これから新市の生活の中身を議論していくわけです。それでもって、どんどん高齢化社会に向かっているわけですから、年齢のトレンドがどうなるか、現在の年齢の構成と、それから10年後、20年後の年齢構成がどうなるか、そういったデータが少し大事なんじゃないかと思います。

委員長（豊口 協）

そうですね、年齢構成、その方がより将来像が結べると思います。

それぞれの市町村の方々、いかがでしょうか。

次に、人口動態の見通しというのがありまして、これは追加の資料として入っているんです。この前もやっぱりそういうご意見がありまして、この資料が追加されて入っていると思いますが、両方重ね合わせてごらんいただければ大体わかりいただけたと思います。

ほかにご意見はございませんでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

じゃ、次の15ページ、気象というのがあります。これも数字が入っておりますが、この数字、特にご意見ございませんか、最大積雪という数字ありますが。

はい。

委員（鈴木隆三）

積雪と気温は出ているんですけども、この地域で一番の問題なのは晴天率というか、冬場の雪が降る、屋外で活動できないような時間、日数がどのくらいあるのかなというような、マイナス的な意味合いがもしもありませんけども、必要かなという気もしないわけではないんですけども、一説によると270日くらいは何か雨模様みたいなことを言う人もいます。

委員長（豊口 協）

1年のうちですか。いかがでしょうか。

委員（鈴木隆三）

マイナス的な要素のものですから。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（鯉江康正）

ちょっと鈴木さんに逆らうようなこと言って申しわけないですが、余りマイナス的な要素は入れない方がいいというのが私の個人的な見解です。

それと、もう一つはここで観光と書いていますので、雪が、じゃマイナスなのかというふうに。観光と書いたときは、雪はやっぱりプラスで考えた方がいいと思うんです。だから、そういう発想を持った方がいいんじゃないかと。特に感じるのは、地元の人が不愉快に思う天候と、外から来た人が魅力を感じるというのはある意味で同じ天候かもしれないんです。雪がすごく降って厳しい冬を見たときに外から来た人は非日常性を感じますので、その辺がうまく表現できるような書きの方が前向きでいいんじゃないかと。あとの各まちのところでも同じようなことをちょっと感じたところがあるので、そのときも言わせていただきますが、そういう意味からいけば、こういう日があるんだというような事実だけの羅列でここはいいような気がしますけど。

委員長（豊口 協）

ただ、私もこれは新しく多様な観光活動とという文章が新しく挿入されているわけです。そうしますと、多様な観光活動ということになったときに、このデータだけで見た人が理解できるかどうかとちょっと疑問に思っているんですけど、私も10年住んでいますけども、非常に多様な観光要素がいっぱいあるもんですから、それをそれぞれ一つ一つこれは別のところに入って説明することになると思いますけども、何か四季のめり張りが非常に明快な、しかも特徴のある地域風土というものがもう少しわかりやすく出ているといいかなという気はするんですけど。

ほかにご意見ございませんか。

はい。

委員（五十嵐徹）

さっきの12ページのアクセス、これと15ページの雪との関係で、明るく観光という一面はわかりますけども、そこに住む人たちの生活の実態の重さというのがあるわけですし、そこら辺のそれがまた逆にもっと突き詰めれば観光になるんじゃないのということもあるんでしょうが、やはりアクセスというのは、これは公共機関のものをとらえた12ページなんだろうけども、かなり降っているときのものということになると、夏場と冬場の時間は相当通勤には苦しむんです、小国の場合は。そんな事情もあるもんですから、都会の人が見ればみんな夏場のイメージでいるんでしょうが、雪のところを強調すれば、それは特殊性の観光要素として挙げられるでしょう。それはいいと思うんですが、日常的な部分でのそういう部分も表現されるのがどうなのかって今質問したんですが、2本線で夏場と12ページを冬場

というふうに分けるとか、こちらの方ではどういう部分で非活動的なものがあるのか括弧書きするとか、そういう方法でもできるのかなという気がいたしました。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

考えてみると、私もニュータウンから大学まで今ですと15分ぐらいで行くんですけども、冬は小一時間かかることがあります、ひどい日は。特に橋の手前で渋滞して全然動かなくなっちゃうということがよくあるもんですから、その辺どういうふうに記載するかはちょっといろいろ難しい点があると思いますけども、ご意見として拝聴いたしまして事務局でまた検討を重ねていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

それでは、次のページ、16ページ、面積です。これは数字で間違いがあると困りますが、行政面積と可住地域面積というのがここではっきりとうたわれておりまして、このデータでよろしいですか。お持ち帰りいただいて、もう一度見ていただいて、もしこの数字に間違いがあればご指摘をいただければと思います。

17ページの土地利用、これもパーセントですと円グラフが書いてありまして、それぞれに数字が入っておりますけども、それぞれの市町村でこの数字に間違いがあると問題になりますので、後ほどまたごらんいただいてご意見をいただきたいと思います。

それから、次の18ページ、都市計画区域です。これは人口の集中地区の面積、それから行政面積、その4%に当たるというふうな言葉が新しく挿入されていると思いますけど。

ご意見がありますか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それじゃ、19ページ、これ追加になっています新市の競争力というところですが、これ新しい追加の項目がいろいろたくさん入っておりまして、例えば右側のグラフですと、各地域の産業規模と成長率というふうな資料が入っておりますし、2番目の製造業1事業所当たりの出荷額、これもそうです。特に新潟市、新潟県との比較等も入っております。すべての点でかなり上向き情報がここに入っておりますけど。

委員（大地正幸）

これちょっと見にくいですね。

委員長（豊口 協）

真ん中のグラフですね。

委員（大地正幸）

はい。越路と三島、これわかりにくいです。片一方を逆三角にしてもらえば大変区別しやすいんですけども、若干線の太さはこれで見るとほとんど同じぐらいの線の太さなんで、知っている人はわかると

思うけども、一般的に見たらこれはどっちをあらわしているのか、このグラフでは読み切れないかなという感じがします。

委員長（豊口 協）

事務局、いかがですか。

事務局（竹見）

直します。

委員長（豊口 協）

お願いいたします。ありがとうございました。

委員（二澤和夫）

カラーですよ。何か入っているから、網が。

委員長（豊口 協）

実際はカラーになっていますね。じゃ、その辺もひとつ考慮していただいて、お願いしたいと思えます。

じゃ、細かい数字につきましては、また後ほどご検討いただきたいと思えます。

20ページに入ります。これも左側に書いてある新市の商業ポテンシャルは、非常に高い可能性を持っていますということが明快にそこに記載されておりまして、右側に小売1店舗当たりの販売額と小売吸引力というのがそこに出ております。それから、上から3番目の図ですが、これは先ほど訂正が入りまして、新潟県と新潟市の情報が違っておりますが、ご訂正いただきたいと思えます。米粗生産額のところです。2行目です。

はい。

委員（鯉江康正）

小売吸引力は、定義式か何かを載せておいた方がいいんじゃないですか。

委員長（豊口 協）

いかがですか。

委員（鯉江康正）

一番上の縦軸です。

事務局（竹見）

わかりやすく載せておきます。

委員長（豊口 協）

これまたお持ち帰りいただいて、細かく見ていただくと、またいろいろとご意見が随分たくさん出てくると思えますけども、それは次の第3回のときにまた改めていただきたいと思えますが。

21ページ、新市の暮らしやすさ、これは新市の住民の安心、安全な暮らしを支える力という言葉で全体を表現しておりまして、犯罪、交通事故、これが新潟県の平均を下回っていると、極めて安心、安全

なまちであるということを訴求しています。それをベースにして新市の環境への優しさということを経営しようということで、2番目に書いてありますけども、汚水処理施設整備率を見ると、全国の平均と同様のレベルに達しているということがここではっきりとうたわれております。

はい

委員（五十嵐徹）

今検挙率とか、そういうのは警察や何かに問い合わせればできますし、犯罪数は少ないけども、柏崎へこの前ちょっと別なので行きましたが、我が市は検挙率が1位だと。そんなわけで、長岡さんの方でも検挙率が1位ならもっと頑張った数字出してもいいのかななんて思いました。

委員長（豊口 協）

近年検挙率は非常に下がっているようですから、これ警察としては出すのはちょっと嫌がるかもしれませんが、その辺もちょっとデータとして整理をしておいていただければと思います。よろしくお願ひします。

お願ひいたします。

委員（高野徳義）

汚水処理の数字のことで6市町村計しか出ていないんですが、各市町村ごとは無理でしょうか。非常に高いと言われましたが、我が地域は下水道はほとんど整備されていないものだから。

委員長（豊口 協）

これまとめて表現されているわけです。これどうなんでしょうか、分けて表現ということは、これから新市になるわけですから、平均値になるだろうと思いますけど。

事務局（竹見）

今回新市の全体の競争力という形でまず考えておまして、今回の21ページにつきましても個別がいいのか、全体でいいのかというのは、検討していただきたいんですけども。

委員長（豊口 協）

将来の新市の策定ということになりますと、この処理がまだできていないところを重点的に汚水処理の工事を進めるといふようなことが見えてくるような気もするんですけども、そういうことは特に必要ないでしょうか。

事務局（竹見）

そういったのも含めて、ちょっと検討していただきたいんですけども。

委員（五十嵐徹）

欄外のここへせっかく空欄があいていますけども、山古志さんは何%とか、それで平均は75.幾らでと、そういうのがあっても邪魔にはならないのかなと思いましたがけど。

委員長（豊口 協）

新市の市民、新しい市民の方々がどういう点を重点政策としてこれからやっていくかという一つのポ

イントを表現するという意味では、現在のこの状況を新市、新しい市民の方にお伝えするということは必要かもしれませんが。

お願いします。

委員（鈴木隆三）

グラフの書き方なんですけど、ここだけ上の方が点々がついているんですけども、これは何か意味があるんですか。ほかのところは、ただ棒グラフだけのところが多いみたいですけども。

委員長（豊口 協）

これは100%やりますと、将来はということではないでしょうか。

はい、どうぞ。

委員（大地正幸）

ちょっと戻って恐縮なんですけども、安全、安心を支える力のところです。上のグラフです。6市町村計とあります。それで、その右側が新潟市ですが、新潟市から比べると6市町村計が物によっては大変高いと。例えば刑法犯認知件数、これなんか6市町村は大変高い。ところが、新潟市は同じ比較であれば新潟市、13市町村の合併後の比較でないと、都市間競争の比較にはならないと思うんだけども、現在の新潟市と6市町村と比較するというと、先ほどの下水普及率と同じような形になるんじゃないかと。だから、比較の基準をもう少し統一していかないと、なかなかもしそういう目的でやるならその方向でやらなきゃいけないし、旧で比較するなら長岡市と新潟市という比較でなきゃいけないと思います。

以上です。

委員長（豊口 協）

ということは、合併前の情報を出して、合併後はこうなるということと比較する相手にもその条件は必要であるということですね。

委員（大地正幸）

そういうことです。

委員長（豊口 協）

わかりました。

ほかによろしいですか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

そうしますと、次の22ページですが、新市の人を育てる力というのがあります。ここは、住民の生涯教育という項目がはっきりと打ち出されておまして、高齢者が生き生きと学び、社会貢献を支える力になるんだということです。それから、2番目のところに施設ボランティア、地域活動につなげた状態でこれを表記しようということです。22ページの右の図のところですが、ボランティア養成講座、平成15年実施予定ということで予定値が書いてありますけども、これは先ほど事務局からお話出ましたように、

これは具体的な数字が把握されていないということでしたので、後ほど修正をしていただくということになります。

お願いいたします。

委員（米持昭次）

この辺もボランティアとか、この下の養成講座の内容とかもいろいろあるんですけど、長岡市さんが主にやっているんですね。小国さんが一部ありますけど、それで字句の方を見ますと大変積極的にやっている、新市が。という書き方になっているんですけど、長岡市さんが積極的にやっているということですので、その辺の記述をどうするかということだと思いますけど。

委員長（豊口 協）

新市ですから、総合的に情報をとらえてやるんだというふうな訴え方をしていくのか、現状を少し踏まえた上で情報提供するのかということになるんですけども、この辺が一番今度のまとめ方の難しいところだと思います。いいものは、やっぱり総合的に全部が協力し合って、こういう方向へいくんだというふうに打ち出した方がいいんじゃないかという気は私個人的にはしているわけですけども、それが新市の一つの特徴になって、新市の市民全体が協力し合って、それを具体化していこうということになるだろうと思います。特に遅れている地域は、やっぱりいいことをやっていこうじゃないかというふうな刺激になっていいんじゃないかという気はいたしておりますけれども、その辺また、事務局、ご検討ください。お願いいたします。

じゃ、次の23ページに入ります。これは新市の交流する力ということになりまして、地域間での交流力というものをここでうたっております。右側のグラフには関越道、磐越道のインターチェンジの出入りの交通量の比較が出ております。それから、観光客と県外客の入り込みの推移というものも出ておりますが、こういうデータだけで地域間の交流の力の表現になるかどうかということはいろいろと問題があるかもしれませんけれども、とにかく人の出入りは非常に多いんだということをご訴えているわけでありまして。

はい。

委員（鯉江康正）

これ一番上は単位がないです。

委員長（豊口 協）

上の図は、単位は書いていないですね。これは、単位は何でしょうか。

事務局（竹見）

台数です。

委員（鯉江康正）

日台数かな。4月から12月の累計で1万2,000台なんていうことはないよね、幾ら何でも。だから、ちょっとその辺単位を明確にしてください。

委員長（豊口 協）

これ1日じゃないですか。

委員（鯉江康正）

多分日台数だと思うんですけど。

それと、真ん中の図がここだけ年度が右から左へ増えてきているんで、ほかのところは左から右ですから、ちょっとその辺も、細かい話で申しわけないですが、調整をして。

委員長（豊口 協）

これはいいご指摘です。私目がはっきりしないもんですから、そこまで見えなかったんですけど、確かにここは右から左へ、そうですね、移っていますね。

委員（大地正幸）

それから、TDM施策等と書いてあります。これも先ほどの注意書きが必要なんじゃないでしょうか。

委員長（豊口 協）

略した言葉は注意書きが必要だと思いますので、お願いいたします。

委員（鯉江康正）

モーダルシフトもしておいた方がいいかもしれない。

委員長（豊口 協）

そうですね。

委員（鯉江康正）

わかる人はわかるでしょうけれども、なかなか市民の人は。

委員長（豊口 協）

特に前の小委員会では相当横文字については強いご要望がございましたので、今回も注意をしていきたいと思います。

お願いします。

委員（米持昭次）

ここのIC出入り交通量のところ、中之島さんも長岡さんに匹敵するぐらいの量がありますので、この文言の中にも中之島インターを入れた方がいいかと思えますけど。

委員長（豊口 協）

文章の方ですね。

委員（米持昭次）

文章の方で。

委員長（豊口 協）

事務局、よろしく申し上げます。

これ余談なことですけども、本当に長岡地域のインターチェンジというか、高速道路というのは本当

に高速道路ですね。走りやすいです。ああ、こういうのがそうなのかと思って実感を私は味わっておりますけど。

ここはよろしいでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

じゃ、次のページ、24ページにまいります。これは、左側の文章の中に構成6市町村の長岡市への通勤、通学流入の人数は増加傾向にありますというふうになってあります。これが改めて明快に打ち出された文章だろうと思いますが、それと比較して右側の6市町村の交流状況、これ平成2年と平成12年とを比較してある数字で、これちょっとわかりにくいのかなという気もしないでもないんですが、いかがでしょうか。この右側の図の読み方というのは、どういうふうを読んだらよろしいんですか。これ、事務局、ちょっと説明していただけませんか。

事務局（竹見）

上から2番目の中之島さんのところをごらんいただきたいんですが、今長岡市への比較なんです。左の方の棒グラフと申しますか、斜め下に来る斜線の部分がまず平成2年と平成12年を比べていただきますと、平成2年よりも12年の方が増加していると。そういった長岡への流入と申しますか、そういったものが増えているということなんです。ですので、6市町村全体としてのそういったものもあるんですけど、こちらからうかがえるのはそういった長岡との結びつきが強くなってきているということで作成しているんです。

委員長（豊口 協）

そうすると、長岡市の場合というのは、これは要するに市内を走っている数は変わらないということですか。

事務局（竹見）

そうです。通勤、通学でございますので、長岡の人はほとんど長岡ということになります。

委員（鯉江康正）

すみません、ただこれパーセントですから、実数自体が多分平成2年より12年の方がふえていると思うんです。そうすると、12年のパーセントが下がっているからといって、実数として交流がなされていないわけじゃないと思うんです。ですから、やっぱり実数の大きさも併記した上で、各都市はどことの交流が多いのかというふうに言わないと全くよくわからないという、多分ほかの方のご指摘のとおりだと思うんですが、これよくわからないという感じだと思うんで、その辺はちょっと注意をして整理をしていただきたいと思っておりますけど。

委員長（豊口 協）

おわかりになりました。皆さん、これご理解されましたですか。

委員（大地正幸）

このグラフ見ますと、右側に縦線が入ったのがあってみたり、格子になってみたり、黒塗りになってみたりというような形になっていますが、これぼちぼちもありますし、ただこれについての意味がこのグラフでは読み取りにくいんじゃないのかなという気がしますけども、これはどういう意味ですか。

委員長（豊口 協）

事務局、お願いいたします。

事務局（竹見）

下の方に凡例があるんですけど、その模様ごとに各市町村さんへの通勤、通学のパーセントといいますが、割合をあらわしているわけなんですけど。

委員（大地正幸）

そうしますと、例えば一番下の小国町を解説していただけますか。

事務局（竹見）

小国町さんですと、左から長岡市です。次が長岡市への通勤、通学の割合ということになります。次が越路町さんへの通勤、通学、そして次は地元の小国町さんへの通勤、通学の割合ということになります。少しここわかりにくいみたいなので、先ほどの実数も入れて作り直します。

委員長（豊口 協）

パーセンテージだけで理解しようとする私は難しい、正確さを欠くようになるだろうと思いますので、その辺ちょっと整理をしていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

委員（五十嵐徹）

23ページの平成12年度の一番下の表ですが、これはカラー刷りになるんですよね。12年度のところの右側の黒いバーがゼロ%より下に表示されて、目のせい、これが新潟県の合計なんですよね。

事務局（竹見）

そうです。

委員（五十嵐徹）

それから、左へいく長いのは新潟市、それから6市町村、あとこの四角のが県外を表示しているんですよね。

委員長（豊口 協）

これ色がどういうふうになっているか、ちょっとわからないんですけど。

委員（五十嵐徹）

これ下の方のバーが12年度、県はマイナスへ入るといのはどうかなと思ったんですが。

委員長（豊口 協）

これ県から怒られないようにしないとまずいと思うんですけど、この辺もう一度調べていただいて、お願いします。じゃ、この辺もう少し調査していただいて、間違いないようにしないとイケませんので。

それでは、25ページ、国際的な視野からの交流力というのがありまして姉妹都市、友好都市のグラフ

が入っております。それから、国際交流推進事業、これが今派遣と受け入れという項目で整理されてお
りまして、受け入れも非常に大きく伸びてきているということになります。この細かい数字、これはも
う一度精査していただきますが、こういう表現でいいかどうかということです。

はい。

委員（伊佐文也）

24ページへ戻ってもいいですか。

委員長（豊口 協）

はい、いいです。

委員（伊佐文也）

これは、あくまでも6市町村間の交流の状況だけであって、例えば私どもの越路の場合ですと、自分
たちの町の中に動いているのと、それから長岡へ行くのと、まずちょっと右側の方へありますが、例
えば小千谷だとか、6市町村だからということでもこういう統計になるんだろうと、統計といいますが、
この表になるんだろうと思うんだけど、その辺は小国さんの場合なんていいますと、柏崎も小千谷も
何も、当然6市町村間ですから、ここへ上げる必要ないわけですけど、何かこれはこれとしてもちょっ
とどこか不足のような部分があるような気がします。

委員長（豊口 協）

これは解釈の方法なんですけど、左側の説明文に他市区町村からの流入は減少していますが、地域内
の交流は増加傾向にありますという項目あるわけです。それをベースにして、このグラフが整理されて
いるんだろうと思いますけど、事務局、いかがですか。これ多くの地域に広げていきますと、非常に整
理はしにくくなるだろうとは思いますが。

事務局（竹見）

どちらがいいかなんですけども、委員の皆さんの方でもしそういった他地区の状況も入れた方がいい
ということであれば、次の回にでも一応資料としてご提示できますけれども。

委員長（豊口 協）

じゃ、次の回のときに、ちょっとそういう例えばこういうことができるんだというふうな資料が出れ
ば、ひとつご説明いただければと思いますが。

委員（五十嵐徹）

今の中で流入という言葉と、前のページで観光はごっちゃにならないと思うんですけども、流入とい
うこの中へ通勤、通学という文字が出ていますけども、これだけを対象にした流動図が下へありますの
で、それだけなんですか。ここで表現しているのは、あくまでも通勤、通学の二つになって、通院
とか、そういうのはないわけですね。そういうのは見れないわけですね。

委員長（豊口 協）

通院も入っていると思いますけども、どうでしょうか。

委員（五十嵐徹）

いや、私が言うのは、はっきりと何と何の項目でこのグラフになったかあくまでも通勤、通学のみということであるのなら、でっかい字ではっきり書いた方がよい。

委員長（豊口 協）

はっきり書いた方がよいと。

委員（五十嵐徹）

はい。

委員長（豊口 協）

事務局どうですか。

事務局（竹見）

いろんな切り口がありますので、もう少しここを整理させていただきます。

委員（鯉江康正）

国勢調査で他地域へ通学している人とか、通勤している人というのをまとめているんだと思うんです。一応全国対象になっちゃうんですが、全国はその他でまとまっていると思うんで、多分この6個の中は当然行き来ありますから、OD表を1個つくっていただいて、一番へりにその他地域とか何かをつけていただければ、これ出ていった人と入ってくる人と両方いる側面を片側だけで図にしちゃっているんで、いろいろ誤解されていると思うんです。それとあと、構成比の問題とか、ですからそれが一つあった方がここでの議論は非常にいいと思うんです。ですから、それをぜひ用意していただければと思います。お願いします。

委員長（豊口 協）

じゃ、次回これ少し内容がわかりやすいように、それから何を対象としてこの調査をしたかということがわかりやすいように、ちょっと整理をしていただきたいと思います。ありがとうございました。

はい。

委員（大地正幸）

今それ論議しているけど、新市ではということなんですから、新市で限定をすれば新市以外と新市以内との交流でなければいけないんじゃないか。それをこれで見れば6市町村の中で現長岡市に対しての出入りの表現になっているけど、解説ではこの文章では必ずしもそうとらえられていないと思うんですが、その辺もやはりきちっと整理してもらわないと誤解を与えるというか、何を言っているのかわけわからないということになるんじゃないかと思います。

委員（野田幹男）

一つ注文明しますが、24ページです。この表現ももう少し通学の流入、流出を考えるんであったら、もう少し表現を変えていただいて、そしてグラフも今言われたようにやはり長岡、あるいは地元ということではなく、もう一つ入れないと非常にわかりにくいし、このグラフも横のを縦に直した方がいいんじゃない

ないでしょうか。その辺また知恵を絞ってみてください。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

非常にたくさんご意見いただきましたということは、非常にこれが不備であるということだと思えます。そういう点で、ひとつ事務局の方で精査をしてもらいまして、次回改めて提案をしてと。

はい。

委員（五十嵐徹）

もう一つよろしいでしょうか。ページが戻って恐縮なんですけど、23ページの一番下のグラフで、これ言わんとする意味はわかるんですが、できましたら、観光の分野で世界に魅力を持つとする部分はあるんでしょうから、発信する分です。そうなれば町村の現状の県内、新潟市、新潟県、県外というのはあるけども、例えば山古志さんあたりの闘牛があります。非常に関心があります。そういう県外の方がどのくらい観光に来ているのか、三島さんはどうなのかという別の数値がここへあってもいいのかなという気がしたんですが、できれば押さえていただいて、6市町村のそれぞれの県外へのアピール度もその辺がわかるんでないかと思しますので、検討していただければと思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、次の25ページへ戻りますけども、国際的な視野からの交流力ということですか。これはよろしいですか。文章の中には、県内高校生を対象として、米国イリノイ州へホームステイの方式によりというふうなことも書いてあります。こういうものは積極的にやるんだというふうなイメージをここで打ち出そうと、こういうことになると思いますが。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、第1回でいろいろご意見をいただきました。その内容を整理をさせていただきまして、今までご検討いただいた25ページまでの間にそれをまたもう一度ご提案しておりまして、今日また改めてそこにご意見をたくさんいただきました。わかりにくい図柄、それから言葉、その他ご指摘いただいた内容につきましては事務局の方でさらに整理をいたしまして、第3回の委員会等でもう一度ご説明、お諮りをしたいと、こう思います。どうもありがとうございました。

それでは、第2章、基本方針ということになります。これは、事務局で先ほど説明がありましたように、別の資料2-2の方に整理をしてまとめてあります。これについてこれからご意見をちょっといただいてまいりたいと思いますけど。

最初の基本方針、新市将来像の考え方ごらんいただきたいと思います。基本的にこの考え方はよろしいですか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

そうしますと、次のページ、2ページですが、地域らしさの価値の1です。重点実現項目というのが下に整理されておまして、4項目ほどそこに記載されております。ここはよろしいですか。

お願いいたします。

委員（米持昭次）

資料2 2でいった方が私はいいと思います。それで、この内容につきましては、今初めて見させてもらったんですけど、基本的にはこれでいいと思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。

じゃ、とにかく今日委員会でもう一度ちょっとお目通しいたきまして、次のページ、3ページが地域らしさの価値の2ですが、これは元気に満ちた米産地という内容でありまして、重点実現項目が3項目にまとめられております。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

次の4ページ、地域らしさの価値の3、世代がつながる安住都市、重点実現項目は4項目になります。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それから、5ページ、地域らしさの価値4、世界をつなぐ和らぎ交流都市、この辺は前の委員会等で随分もんでいただきまして、こういう言葉に整理されております。重点実現項目は3項目です。

お願いいたします。

委員（鯉江康正）

将来構想の報告書のとおりなんで、今さら文句を言ってもしょうがないんだろうけども、3ページのところの一番最後にスローフードの振興と書いてあります。この中が括弧書きで風土という字が漢字で書いてあるんですけども、こういうやり方って本当にいいのかなという議論をちょっとしていただきたいと個人的には思います。というのは、スローフードという要望があるのに、それをゆがめて表示していくことです。あとは、お年寄りもいるわけですから、そうしたときに、ああ、スローフードって風の土地だと、子供の小学校の字が書けなくなるようなことを推進するようなことをやってしまうのいいのかどうかというのをちょっと議論していただきたいと個人的にお願いします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

またこれ差しさわりありますけども、何となくスポーツ新聞紙の表現みたいな感じもしないでもないんですけど、いかがですか、非常にいいご指摘をいただいたと思います。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。

ほかにご意見ございませんか。やっぱり正確にこれ市民がみんな読むわけですから、こういうひっかけたような言葉はできるだけ公的な書類としてはやらない方がいいだろうと。ご指摘のとおりと思います。

どうぞ。

委員（大地正幸）

私もそういう意味では、不確実性の時代というのに大変ひっかかったわけです。それ自身に一つの定義された意味を持っているような気がします。しかも、それは五十数年前に発表された考え方なものですから、そういうものを今さら持ち出して、しかも別の意味で使うのはいかがかなという感じを持って、前回は言わせていただいたわけです。

委員長（豊口 協）

じゃ、その辺、事務局、ちょっと検討してください。お願いいたします。

ほかにありますか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

6ページに、地域の夢というのがここに記載されています。これが新しい考え方の将来に対するキーワードになっていくと思いますけども、これは言葉でありまして、さらにこれを具体的に、じゃ何をするのかということになると、次の段階で具体的な提案ということになりますけど。

じゃ、次へ進みまして、5ページ、地域らしさ価値4、世界をつなぐ和らぎ交流都市であります。その後ずっと地域の夢が整理されております。これも言葉ですから、具体的にどうするのかということはこれからの次の作業になると思います。

特にご意見なければ次に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

どうもいろいろとありがとうございました。

今日いただいたご意見は非常に貴重なご意見だと思いますし、最終的にまとめていく段階では今日いただいたご意見が一つの基本的なベースになると思いますので、事務局の方で整理をさせていただきまして、第3回の委員会でまた改めてお諮りをしたいと思います。

資料の1と2これで終わります。次に将来構想実現に向けての新市の施策についてということでご意見をいただいてまいりたいと思いますが、これについて、事務局、何かご説明お願いしたいと思います。

事務局（竹見）

それでは、本日お手元にある将来構想実現に向けての新市の施策についてをごらんください。あらかじめ委員の皆様方にはお配りさせていただいた資料でございますけれども、本日ご討議いただきたい内容として、まず大きく三つ掲げております。一つ目が四つの地域らしさ価値を高める施策や取り組みについて、そして二つ目が重点実現項目を実現するための具体策、戦略についてと、そして三つ目が新市の統合ビジョンということで人は財、^{たから}そういった人材の育成とか、そういった部分から発想される施策というものをいろいろご提案いただきたいと思います。施策検討の視点といたしましては、右に書いてございますように新市全体での取り組みの視点として、将来構想そのものが行政だけの目標ではないということで、市民、行政が一体となって取り組む考え方を、そういった視点、それから市民が新市を実感できるような、そういった大きく新市をアピールできる、そういった取り組みや考え方、それから非常に財政状況が厳しいと、そういったものの中でもリーディング的に行うべき取り組み、それから社会背景を先ほども不確実性の時代ということでもありますけれども、先行き不透明な、こういった時代の中で、新長岡の課題解決の取り組みや考え方など、そういった視点でいろんなご提案をいただきたいと思います。それで、今現在のこちらの作業状況でございますけれども、各市町村からご提案いただいた事業を分科会の方でいろいろ整理させていただいて、素材としてはそろっております。これを本日皆様方のいろんなご意見をいただいた中で、根幹事業も今後整理していきたいということで考えておりますので、ぜひよろしくお願いたします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、将来構想の実現に向けての新市の施策について、かなり具体的なこととなりますけれども、この辺自由にひとつご発言をいただきたいと思います。四つの地域らしさ価値というの先ほどからここに記載されておりますけれども、例えば独創企業という言葉がうたってありますけれども、どういう企業がどういうふうな形でどういうふうに新しい都市を構造していくのかというふうなこと、それから元気に満ちた米産地という言葉がありますけれども、これはほかの地域と違ってどういう特性を持っていったら将来いいのだろうかというふうなことにもなると思います。それから、世代がつながる安住都市ということ、これは高齢者福祉の問題にもつながってくると思うんですけども、例えば長岡には総合病院がたしか五つあると思うんですけども、空き地を持っているのが日赤病院と、それから今度移転をします中央病院が周りに広い空き地を持つわけですけども、ここにヘリポートをつくれれば山古志村から5分で患者を運んでくることができるということで、ヘリによる病院を中心とした医療施設というのが、救急対応施設というのがかなり具体的に可能な地域だろうという気は私は個人的にはしているんです、土地がたくさんありますので。そういった方策も、ぜひ特徴として具体化をしていただければというふうな気もしておりますが。

ヘリですと、山古志村から何分ぐらいで来るんですか。5分じゃだめですか。来るでしょう。救急車ですと、どのぐらいかかるんですか、さっきの交通じゃないけど。

事務局（坂牧宇一郎）

車で飛ばして35分です。

委員長（豊口 協）

じゃ、5分ならすごくいいですね。

例えばの話ですが、そういうことでも結構ですので、どうぞご意見をいただきたいと思います。

委員（高野徳義）

各地域のでも言っているんですか。

委員長（豊口 協）

はい、よろしいです。それは新しい市の一つの構成、施策として展開されますので。

委員（高野徳義）

いつ具体的なのに入るのかと、こう考えて、この次の回からなんて思っていますが、先ほどの委員長おっしゃいました病院のいいのができたというのは非常にありがたい話ですが、山古志村はまだバスで直接長岡まで来れないんです。直通はないんです。だから、いい病院ができて、どうやって来るのかと。車のある家庭は問題ないとしても、老人世帯でバス乗りかえ、しかも駅まで、あとそこからはどうしていくのかわからないと、その辺一番大きな。地域らしさという話なんだけど、このらしさは余りありがたいと。何とか新市になったら直通のバスは欲しいと思うんです。新市の計画書を見れば、それは全地域の住民が見るわけでしょうから、30年、40年後にすばらしくなるという意見が多くていいんですが、ほんの少しでもいいから現実的な問題が、ああ、これはよくなるんだというのがやっぱり欲しいです。道路が悪いためにバスのすれ違いができないからバスの直通がないのと、それと採算性が合わないから民間のバス会社が来ないということなんでしょうけども、そこら辺が新市になって小型のバス、あるいはノンステップバスみたいのがあるんならありがたいと。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

お願いします。

委員（鯉江康正）

個別市町村からの報告はこちらの方の49ページ以降にまとめてあって、それが要望なのかもしれませんが、それはそれでいいと思うんですが、全体として僕最初に特に事務局サイド及び我々が考えなきゃいけないこととして、ちょっとこの資料を読ませていただいて感じたことがあるんですけども、一つは供給サイドになっていないかということなんです。各市町村はこういうことを整備していきます、やりますと言っているだけで、需要を本当に考えているのかなというのがやや不安なんです。その需要というのは何かというと、だれが利用するのか、つまりそれをどこの人が利用するのかという意味です。この地域内の人なのか、あるいは外の人なのか、県外の人なのか。例えば公設の研究機関なんていうのはこの地域内だけじゃないかもしれないし、場合によっては技大の人しか使わないかもしれないし、そ

ういう意味でどこの人が利用するのかということと、もう一つは利用する年齢層とか、交通弱者であるとか、そういうような属性、それを想定してひとつ必要な整備というのを考えていかないと、何かつくりましたと、こういうサービスやりましたけども、だれも使いませんでしたになっちゃいそうで、非常に何か新市になったけども、余り魅力のないものかなというふうになりそうな気がする。だから、だれが利用するのかということと。

もう一つは、こういう整備を各市町村でやっていったときに、うまくいくためのボトルネックがどこにあるのか。例えば今の山古志村さんのお話じゃないですけども、バスが直通で行くようになれば救われることだったら行くようにすればいいんです。乗りかえなきゃいけないというボトルネックがあるわけです。そのボトルネックが何なのかと、これを実際に各地域で実現に向けて走っていったときに、それが効果をあらわすために隘路となっている部分がどこなのかというところの話がなされないと、どうもまずいのかなと。それと、先ほどから出ていて、観光というのは一番わかりやすくて言いやすいんですが、やっぱり年齢とか、層によって観光のパターンも違えば目的も違うと思うんです。ひどい話が海水浴とよく言うんですが、海水浴とスキーができますという観光を売り込んだとして、これ全く季節違うのに何をおまえは売り込んだるんじゃという話になるわけじゃないですか。それとか、たまたま長岡の場合は新幹線もある程度本数走っていますから、いいですけども、例えばどこか温泉へ泊まって、ホテルが温泉の最寄りの駅までお送りしましたと。仮に朝10時にチェックアウトしてお送りしましたと。ところが、次の電車が来るのが12時だったと。2時間無人の駅で雪降る中待たされたら、二度とこんなところ来るかと思うわけです。その間に、じゃ新しい市になって、いろんなサービスをどうやって補うようなソフトの側面を整備していくのかとか、そういう部分の話し合いが、これは建設計画でやらなくてもいいのかもしれませんが、どこかで置いておかないと、結局合併してできたけども、各市町村が希望を言って、はい、箱ができましたで終わりですというふうでは、何かしなかった方がよかったのかなみたいなことになりそうなので、ちょっとその議論をどこの段階でどうやってやるのかということをお聞かせ願いたいというか、お願いしたいんですが。

委員長（豊口 協）

今ご指摘いただいた内容というのは非常に重要な課題でありまして、最終的にこの策定小委員会でやっている提案というのは、具体的なそこまでの内容について方向性を出す必要があると思うんです。それを出しておかないと意味が全くないということになりますので、この小委員会に課せられた課題というのは非常に重要なんです。ワークショップでやっていただいた市民の各声というのが既に任意協議会の中で整理されておりまして、その声を整理をして、その声にこたえるような施策を新しい新市ではやってもらわなきゃいけないというのが全体にあります。ですから、例えば医療施設を使うときにはどうしたらいいのかということについての具体的な提案もしなきゃいけないだろうし、それから観光要素が今整理されておりまして、どことこの地域でぜひともこの観光要素だけは残さなきゃいけないというのが市民の要望で出ているわけです。その観光資源というものをどれこれから生かして、活性化して、新

市の全体の一つの観光資源として育てるためにはどうしたらいいのかというふうなこともこれからやらずなくちゃいけない。その辺の作業はこれからの段階にずっとたくさん残っておりまして、それはこの小委員会の一つの責任だというふうに私は考えているわけです。ですから、まだこれ始まって今日で2回目ですから、あと全体で二十何回ある予定ですから、だんだんそういう具体的なことについての意見交換というのは進んでくるだろうと思いますけども、そういう状況になっております。

今までの1章、2章を含めて、これだけはとにかく条件として出しておかなきゃいけないだろうというふうなご意見がありましたら、ぜひともお出しいただきたいと思います。そういうご意見をベースにして事務局の方で整理をしてもらうことになりますので、余り意見が出てこない、事務局としても整理をする要素をつかみにくいというふうな点がありまして、その辺のギャップをなくするのが今日これからの意見交換というふうにお考えいただきたいと思います。

委員（米持昭次）

新市建設計画については、6市町村それぞれ提案されているわけです。提出されているわけです。ここには出ていませんけど、どこがどういうのが出ているかというのは事務局段階では来ているわけです。聞くところによると、それは本当にできる事業の何倍もあるということで聞いていますけど、それはどこでも自分たちの地域をよくしたいという、それは熱い思いはありますけど、新しい長岡市としての視点から考えるということが大事なわけですから、それをどうするかということですので、夢もいいんですけど、現実問題とすると、やはりそういうことになってくるかなと思う中で、先ほど鯉江先生が言われました、やっぱり建物を建てるにも需要がどうかということが一番大事なかなと、経済効果のある投資ということが大事なかなと思うんですけど、この辺も難しいんですけど、そういうせっかく合併するんですから、やはり長岡市全体として、6市町村全体とした中の適正配置というか、そういうことも考えながら、それともう一つはやはり新市将来構想という中でそれぞれの長岡全体としてはこうだと、また各地域ごとにはこれで生きていこうという、また地域ごとの方向性もあるわけですので、そういうような観点と結びつく中でやはり建設計画事業を組み立てていかなきゃならんのかなと思うんですけど、これからの問題ですが。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ということで、建設計画のディテールを詰めていくというのはこれから大変な作業になるわけですけども、しかし全国に先駆けて新しい6市町村の合併でまちができるわけで、市ができるわけでありまして、その中で参考というよりも皆さんがなるほどと納得するような、そういうまちづくりをしなきゃいけないと思っております。

はい。

委員（高野徳義）

新市の計画ということで理想的なこと、意味はわかるんですが、私は村の住民代表として皆さん方の

進んだ各地域と比べると、人口は確かに100分の1ですが、不安事や懸念はやっぱり100倍はあるんで、逆にある程度希望して、どうすればいいんだというのをこっちが聞きたいぐらいなんですけど、確かに人口は2,000そこそこですから、全体から見れば100分の1ですけど、逆にまたああいう山間地ですから、住民の不安や要望は皆さん方の地域に比べれば100倍もあると思うんです。だから、これから具体的にいろんなのを出していけるとは思うんですが、余りいっぱいあって、逆に提案して、皆さん方から、じゃそれはどうすればいいんだというのを聞きたいです。病院だ、いや、図書館だ、美術館だ、すごいのができてよくなるというのはわかるんですが、地域住民からすると、合併してどうなるんだというやっぱり不安が非常に大きいもんだから、そこら辺のところをこれから次の回でどんどんと言わせていただければな、また皆さん方の意見を聞かせていただきたいなと思っていますが。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかにご意見。

じゃ、お願いします。

委員（今泉 實）

大変すばらしい建設計画等の計画書の構成ができ上がったものを見させていただいて、例えば第1章の新市の概況からみた可能性、あるいは新市の競争力とか、新市の暮らしやすさ、そうしたものを踏まえて、そして基本的な方向性が文言として理想的にうたわれたわけでございます。今ほどもいろいろとお話が出ておりましたように、問題は6市町村が目指している新市、このような理想のもとで実現がどの程度までできるかというのがもちろんこれからの問題ですが、いうなればこれから出てくると思うんですが、その裏打ちになる財源というめどがどの程度まで許されるのか。それと相まって、この構想に基づいた、あるいは基本的にに基づいたものを張りつけながら構築していかねばならんと、こういう大きな使命があるわけです。だから、全くこれは大変な問題を我々が背負っているなと、こんなふうに実は思うわけなんで、恐らく今いろいろとお話が出ておりますように、それは各市町村でいろいろ登載事業が盛りだくさん出てくると思うんですが、それは出てくるというのは当たり前の話で、それはお互い長岡市もそうですが、各町村もそれぞれ状況に応じて10カ年計画、5カ年計画というのを持っておりますから、そういうものを集めた中での整合性、そしてその中にいわゆる中核、核を長岡市に求めながら、周りの町村のそれに値する小さな核というか、そういうものも見据えていかなきゃならんと、こう思うんで、まことに基本方針や、これからの可能性等についてはすばらしいものができ上がっておりますので、そうした肉づけをこれから真剣に考えていかなきゃならんと、こう思う次第であります。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

法定協議会の方でも法律的ないろんな問題については随分議論されておられまして、それぞれがかな

りダイナミックに整理をされて、新しいまちの基本的な構造について進めておられます。そういう決めなきゃいけない法律的な条件、これも整いつつありますし、今度我々の場合ですと、そういう法律の改正に基づいてどういう具体的なサービスを市民にやっていったらいいかということについてのビジョンはもちろんですけども、具体的な建設計画についても提案しなきゃいけないだろうということになってくるわけです。そういう意味で、今日は第2回でございますけども、3回以降さらに具体的な内容整備を事務局の方で整理をしてもらいまして、提案をしてもらい、そして委員会で委員の方々のご意見をそれに付加していただいて、具体的な計画の策定を進めていきたいと、こう思っております。まだ入ったばかり、2回目でございますので、今後かなりの回を重ねて具体的な展開をしたいと、こういうふうに思っております。

今日は、この後予定がございます。そういうわけで、これで今日の委員会は終わらせていただきたいと思っておりますけれども、ほかにご意見がありましたら最後にお伺いしたいと思っております。

お願いします。

委員（五十嵐徹）

それぞれの町村の方にも事情がありまして、いろいろ俗に言う目玉出し、新潟市さんのような、ああいう形になりたくない、それは皆さん、みんな思っておりますし、新市の中でのやはり基本方針、これには従うというのは当然なんですけど、これからまだうちの場合はもう一、二まちづくりビジョン検討委員会に委嘱している部分で少し追加になる可能性もあるんですけど、いずれにしてもこちら5月末、うちの方も5月末の答申になるんですけど、早目の対応を持っていきたいと思っておりますけども、今山古志さんが言いましたように、そういう事情をまたよく酌んでいただいて、そしてその意見もここで十分議論していただくと。それから、専門分科会とか、そういう部分でもこの項目がみんな並んで、それからワーキングチームでも出るわけですが、ちょっとおくれて載る可能性もありますので、それらも一応セーフにさせていただくような考え方をひとつとっておいていただきたい。もう発車したから一切だめだと言われると、うちの方もちょっと一、二厳しいのがあるのかなと思っておりますが、その辺は含んでいただきたいと思っております。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

最後に、副委員長、何か。

副委員長（二澤和夫）

これから生々しい話になります。それから、実現性ということになりますと、当然財源の裏打ちというふうな話になるわけでございますけれども、その辺勘案するときに、やはり私ども行政の立場におる者としましては市民と協働のまちづくりといいますか、NPOだとか、あるいは民営化とか、公設民営とか、民設民営とかというふうなことを入れていかないと、やはりおさまらないのではないかとというふうな感じがしておるわけございまして、今までみたいに行政が全部やるというふうな時代ではないと

いう観点をぜひ入れて検討していきたいというふうに思っておりますが、これ今日のご検討いただきたい内容の中の に近いのかなというふうな気がいたしますけれども、そういった視点をどこかに入れる必要があるのかなというふうなことを感じております。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

そういうことで課題はこれからたくさんございますので、ひとつよろしくご協力いただきたいと思います。

じゃ、この後の日程その他を含めて、事務局、何か連絡事項ありましたらお願いしたいと思います。

事務局（竹見）

それでは、ちょっと連絡をさせていただきます。

資料2 1の10ページをごらんいただきたいんですけども、下の方に各市町村分科会作業フローということで、今現在の作業状況と今後の予定をご報告させていただきます。各市町村で事業調書を記入していただいて、分野別分科会で関連事業を選定、そして分野別分科会の中で事業区分をしております。ですので、左から三つ目までの作業がほとんど今終わっているような状況です。そして、今後の作業の予定なんですけど、一番右のいわゆる企画総計、財政分科会、それから合併担当を中心としたワーキングチームをつくりまして、そういった事業費等を含めた登載事業の整理をさせていただきます。下の方にありますように建設計画登載事業の整理ということで、いわゆる横断的な見方をも含めたり、それからリーディング事業も含めながら検討をしていきたいというふうに考えております。ワーキングのメンバーにつきましては、企画総計、それから合併担当を中心として各市町村2名ずつ出させていただきます。合計12名と、それから事務局をも加わりながらワーキングとして作業を進めていきたいと思っています。今後ある程度ワーキングの方の作業のめどが立ち次第、小委員会の方にまたご報告、あるいはご提案という形で今後進めていきたいと思っております。

次回の小委員会は、5月の19日以降を予定しておりますので、よろしくお願いたします。

事務局（高橋）

本日のこの後の予定でございますが、また場所を変えまして、また自由な意見をお聞きするような会を予定しておりますので、市役所の1階の西口の方にバスが用意されておりますので、会が終わりましたら、そちらの方にお集まりいただきたいと思います。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

今日はどうも本当にありがとうございました。次回もよろしくお願いたします。

（散会 午後4時40分）